

本人確認を、 もっとやさしく。

利用者のわかりやすさと、事業者の運用しやすさ。

確認の入口から判定後の対応、情報の削除までを、ひとつの流れとして考えます。

PRODUCT GUIDE / 2026.08

01 利用者フロー

02 判定・再撮影・目視確認

03 専用管理画面

04 継続的な本人性確認

05 安全設計

06 API/Webhook連携

本資料はIDENTAの製品構造・運用設計を説明するものです。提供範囲は導入時に確認します。

01 製品概要

本人確認は、判定だけじゃない。

IDENTAは、利用者の確認体験と、事業者が結果を扱う運用の両方を見渡す法人向け本人確認サービスです。

01

体験

同意、書類撮影、顔ライブネスを、次の操作がわかる流れにつなげます。

- 目的を理解して開始
- 撮影状態を案内
- 再撮影理由を次の操作へ

02

運用

自動判定だけで終わらず、再撮影や目視確認を同じ運用線上で扱います。

- 状態と次の対応を整理
- 役割に応じた確認
- 結果を業務へ連携

03

管理

目的、保護境界、権限、保持、削除を情報のライフサイクルとして考えます。

- 目的別に保護
- 操作を確認できる構造
- 不要時の削除を主経路に

IDENTAならではの視点：判定の成否だけでなく、その前後にある説明・運用・削除までを製品構造に含めます。

02 利用者フロー

6ステップで、迷いを減らす。

確認の目的を理解して始め、必要に応じた再撮影や目視確認を経て、結果を導入先の業務へ戻します。

- 01 目的と内容を確認**
取り扱う情報と同意内容を確認して開始。
理解して始める
- 02 本人確認書類を撮影**
画面の案内に沿って必要な面を撮影。
撮影案内
- 03 顔ライブネスを確認**
その場にいるご本人であることを確認。
本人性の確認
- 04 自動判定**
取得した情報を確認し、次の運用へ。
結果を整理
- 05 再撮影・目視確認**
必要なケースを次の対応へ振り分け。
運用分岐
- 06 結果を連携**
API/Webhookで導入先の業務へ接続。
業務へ接続

設計の中心は『エラーを出すこと』ではなく、利用者が次に何をすればよいかを伝え、運用側にも状態を残すことです。

03 判定後の運用

判定を、現場で使える答えに。

ひとつの判定結果で完結させず、ケースの状態と必要な対応を整理して、利用者・確認担当者・導入先をつなぎます。



A

利用者への戻し方

再撮影が必要な場合は、単に失敗と伝えるのではなく、次の撮影で改善できる情報へつなげます。

- 現在の状態を明確にする
- 次に必要な操作を示す
- 再開できる導線を用意する

B

運用者への渡し方

目視確認が必要なケースは、確認待ちとして整理し、担当者が次の操作を判断できる状態へ進めます。

- 待ち行列を整理
- 役割に応じた閲覧と操作
- 確認後の結果連携

公開上の範囲：内部の判定ロジック、しきい値、管理API、個別設定は、サイトと資料に含めません。

04 専用管理画面

判断すべきことだけ、目の前に。

確認の進行状況、再撮影、目視確認、設定、権限、操作履歴、連携状況を、役割に応じて扱う構造を想定しています。



ケース管理

状態と次の対応を整理

目視確認

確認待ちを担当へ

設定・同意

実施条件を管理

権限・監査

役割と操作を確認

情報管理

保持と削除を確認

連携状況

結果通知の状態を確認

画面は情報構造を示す概念図です。実際の画面名称、項目、操作権限、提供範囲は導入時の確認事項です。

05 継続的な本人性確認

確認する前に、理由を揃える。

初回確認だけに頼らず必要な場面で本人性を確かめる構造を目指します。ただし、無条件に行うものではありません。

前提 1

テナント設定

利用目的と実施条件を設定

前提 2

利用者の同意

内容を理解したうえで同意

設定 + 同意 が揃ってから実施

実施

必要な場面で確認

目的に応じた本人性確認

運用

履歴と状態を確認

保持・削除と切り分けて管理

確認の実施目的、同意、履歴、保持、削除を混同せず、運用者がそれぞれを確認できる構造へつなげます。

06 安全設計

集める前に、終わりまで考える。

本人確認情報は、取得することだけでなく、目的、保護境界、アクセスできる役割、保持期間、不要時の削除までを一続きで設計します。

01

目的を定める

なぜ必要かを明確にする

02

必要な範囲で取得

目的に照らして絞る

03

分けて守る

目的別の境界と暗号化

04

触れ方を制御

役割と操作を確認

05

期間を管理

保持の状態を運用で確認

06

不要時に削除

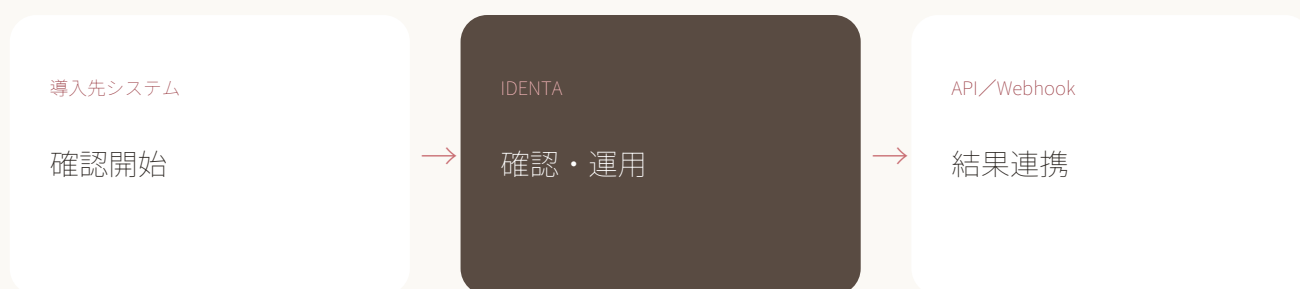
状態変化に連動する主経路

公開サイトでは、未確定の準拠法令、認証取得、精度、処理時間、実績を推測で記載しません。

07 システム連携

結果を返す。業務が動く。

導入先から本人確認を開始し、IDENTAで確認・運用した結果をAPI/Webhookで後続処理へ戻す接続を想定します。



A

API連携

導入先のサービスから本人確認を開始し、必要な情報を連携するための接続点を用意します。

- 開始に必要な情報を受け取る
- 確認状態を業務で参照する
- 認証情報は公開面に出さない

B

Webhook連携

確認状態の変化や結果を導入先へ通知し、後続の業務処理へつなげます。

- 状態変化を通知
- 結果に応じた処理へ接続
- 通知先や再送設計は導入時に確認

公開しないもの：内部ホスト、管理API、判定ロジック、しきい値、認証情報、個別テナントの設定。

08 導入時の確認事項

つなぐ前に、運用を描く。

IDENTAを業務へ組み込む前に、利用者への説明、確認フロー、担当者の役割、結果連携、情報管理を一
緒に整理します。

01

利用者体験

- 本人確認を行う目的
- 取得する情報と同意内容
- 再撮影時の案内と再開方法

02

判定・目視確認

- 自動判定後の運用分岐
- 確認待ちを扱う担当と役割
- 結果確定後の業務処理

03

専用管理画面

- 必要な閲覧・操作権限
- 重要操作を確認する方法
- 設定変更時の運用ルール

04

連携

- 確認開始の接続点
- 結果通知と後続処理
- 障害・再送時の取り扱い

05

情報管理

- 目的別の保護境界
- 保持期間と削除条件
- 状態変化と削除の接続

06

提供範囲

- 利用する確認フロー
- 継続確認の前提条件
- 検証項目と受け入れ基準

導入内容が確定していない段階では、精度、処理時間、提供機能、法令準拠、実績を断定しません。

09 運営会社

信頼の入口を、つくる会社。

このプロダクトをつくるのは、株式会社 T-REX SOLUTION。本人確認の体験と運用を、ひとつの形として磨き続けます。

OPERATED BY

株式会社
T-REX
SOLUTION

製品に関するご相談は、運営会社の
メールアドレスまでお問い合わせく
ださい。

info@trx.inc

会社名	株式会社 T-REX SOLUTION
-----	---------------------

所在地	東京都港区芝三丁目13-8 WOWK芝公園8F
-----	----------------------------

設立	2011年2月
----	---------

資本金	1,000万円
-----	---------

代表取締役	千葉 勇太郎
-------	--------

電話番号	03-6778-2426
------	--------------

メールアドレス	info@trx.inc
---------	--------------

IDENTAに関する導入・運用のご相談を承ります。
製品の提供範囲は個別のご案内時に確認します。